

No.	発言のポイント	要旨
1	優位性を生かして企業誘致を	岡山市のポテンシャル、優位性を認識して何をなすべきかを考えないといけない。医療水準が高い、自然災害のリスクが低いなどの利点を生かして、西日本のバックアップセンターという位置づけで企業の誘致を図る。その際、空港南産業団地は大変有望だ。
2	定住促進のための企業誘致を	岡山の活力を創造する意味では、若年層の雇用を増やし、定住を促進することが必要だ。岡山空港の南の工業団地の開発を岡山県と協働で進めるということで、企業誘致をしてもらいたい。同時に交通の利便性を生かして、企業の支社・支店の誘致をしてもらいたい。
3	地域外の需要を取り込み、医療・福祉の集積を	産業振興の一つのポイントとして移外型産業がある。岡山市には立派な総合病院があり、医療・福祉の水準が高いと言われるが、地域外に対してサービスを提供する、あるいは地域外から人を引き込むようにする。それが医療・福祉の集積につながれば、さらに大きな発展を生み出す。
4	都市の機能や格を向上させる産業の集積を	中枢性の高い医療サービスの集積をはじめ、対事業者サービスや知識集約型の産業などの集積が、都市の機能や格を上げる上で重要になる。その基盤として都市の回遊性や居住環境、交通機能の強化が必要だ。世界レベルの会議の開催などを入口として、岡山の知名度を国内外に広めていくことも重要になる。
5	起業奨励金制度の設置を	産業・経済の振興には起業支援が重要だ。就労者が多い分野で、ニーズの高いサービスに着目し、起業を奨励する奨励金制度を設けるのはどうか。具体的には生活関連サービス業や情報通信業、健康づくり支援事業などの起業を奨励する。
6	本社機能移転の優遇対策を	本社機能移転支援も重要だ。地価の高い都市や交通の不便な地域から、本社を岡山市に移転する場合、奨励金を支給する制度を設ける。倉敷市が東京からの移転に対して優遇措置を発表している。岡山市は大阪、愛知、神奈川などを狙ってはどうか。
7	製造業誘致で若者の定住化を	岡山市には製造業が少ない。瀬戸内市や倉敷市に出ていく人もいる。大学生も含め、専門学校や高校の卒業生など、多様な若い世代に岡山市に留まってもらうために、製造業の企業誘致をお願いしたい。
8	優秀な中小企業の発掘・支援を	岡山市内にある企業の育成、ベンチャー企業の支援などを地道に手掛けることが必要だ。岡山市にはオンリーワン・ナンバーワンの中小企業がたくさんある。優秀な中小企業を発掘して、積極的な支援を通じて育成してほしい。
9	ポテンシャルのある若い企業に支援を	岡山のオンリーワン・ナンバーワン企業を見つけて、助成することが重要だ。岡山のパン屋がインドネシアに進出、結果的にインドネシアのパンの品質改良につながった。今後の企業発展はローカルからグローバルへというLG型に変わっていく。そういうポテンシャルのある、しかも若い企業を何らかの形で支援する。それを知らしめるだけでも価値はある。
10	サンノゼ市との連携見直しを	21世紀はサービス化が重要になる。特にICTを中心としたサービスを伸ばしていかなければならない。その点で海外都市との連携、中でもサンノゼ市との連携をもう一度きちんと見直すべきだ。岡山市にとって重要なパートナーになるのではないかな。
11	医療機関の全体マネジメントを	医療・福祉は経済的な効果、雇用面の効果が感じられ、岡山市が医療・福祉の先進都市を目指す可能性は十分にある。ただ、医療機関が若干供給過多になっているという危機感もあり、全体的なマネジメントが必要だ。それこそ一括管理とか、全体で考えることが求められる。

No.	発言のポイント	要旨
12	安全・安心な地の利をアピール	大都市圏に所在する企業本社の誘致促進が必要だ。岡山市は交通の要衝であり、気候風土も安定している。また、原発から半径何キロで円を描いた時、日本のほとんどが覆い尽くされる中で、岡山市は唯一の空白地帯であると聞いている。安全・安心が最大の地の利であり、若者の起業支援と結び付けていけば、なおよいと考える。
13	起業促進・事業再生・事業所増加の三位一体の政策を	事業の質を高めて雇用を確保し、内需を拡大するためには、起業促進をすることと、事業再生を進めることと、事業所を増やすこと、この三位一体の政策を進めることが必要だ。市民会館の移転問題は、コンベンションのことも頭に入れて決着していただきたい。
14	広い視野で人材活用を	就農問題では、就活と同様に就農した際の収入や住居、老後などの生涯設計を学生に明示して、案内をすることが必要ではないか。女性の活用では管理職への登用だけでなく、男性中心と思われる業務にも活用できる余地があると考え。
15	ワーク・ライフ・バランス実践のサポートを	女性が子どもを産むと働けないというリスクを減らしていくことも必要だ。女性の社会進出の促進という点では、老若男女が活躍できることが重要だと考える。女性が輝くためには、男性も輝いていなくてはならない。男女共同参画で内閣府の資料の中にワーク・ライフ・バランス憲章が作られている。その実践を奨励することを行政的にサポートしていけばいいのではないか。
16	女性が就労を選択できる社会を	女性の社会進出で、すべての女性が0歳から子どもを保育所に預けて働くというのはいかがか。女性が働くか働かないかは選択できる社会であってほしい。保育所に預けられない場合は、民間やNPOの方、あるいは地域の高齢者による子育てでもいいのではないか。家庭で保育をしている女性にも優遇策があってもいいのではないか。子育てが終わった時、再就職に向けたスキルアップのための支援策も必要だ。
17	女性の働き方に対する職場の意識改革を	若い女性が育児休暇を取りにくいといった問題があり、職場の意識改革も必要だ。女性が働き方を自由に選択できるといった試みも重要ではないか。妊娠や出産に関する正しい情報を、学校教育も含めてもっと提供していくことも必要だ。
18	女性管理職の増加を	岡山は女性の人材が多いが、管理職への登用は企業、市役所、大学ともに低い。女性を管理職に登用しないような雰囲気があるのではないか。人間関係をもっとオープンでフラットにする努力をしないと、若手の優秀な人材を集められなくなる。
19	芸術祭をチャンスに歴史文化のアピールを	岡山市の歴史文化は厚みがあるが、イメージが薄い。後樂園やカルチャーゾーンがあり、国吉康雄や竹久夢二の作品が鑑賞できる。この環境をもっとアピールしたい。来年は瀬戸内国際芸術祭、そして岡山国際現代芸術祭も開催される。絶好のチャンスととらえ、近隣の自治体と連携して岡山市の見どころをどんどん売り込んでいただきたい。
20	外国語のサイン設置や情報発信を	外国人観光客が路面電車の乗り方や後樂園への行き方が分からず、困っていることがある。外国語のサイン設置などのホスピタリティが必要だ。また、フェイスブックなどの媒体を使って、まめに外国語で情報発信を行い、岡山に来てもらう仕掛けを考える。
21	学会運営のトータルサポートを	岡山で学会を開催すれば、各領域の主導的な立場の人々に岡山の快適さ、便利さ、親切さをアピールするよい機会になる。学会期間中の移動手段や食事の手配、記録の作成などのニーズをセットで賄うことを行政で提案する、あるいはそうした事業を手掛ける企業とタイアップすることを考える。

No.	発言のポイント	要旨
22	大規模な学会の実施対策を	学術集会長を担当した場合、小さな学会なら岡山で何とかできるが、三千、五千、1万になると、わざわざ県外に会場を借りて、岡山から出て開催している。既存施設や新築される市民会館などを利用して、1万人規模の学会を開催できるモデルをつくるのが重要だ。
23	「これが岡山」という日本一を	外国人に岡山市の魅力を説明すると、基本的な生活基盤がとてもよい街だということを再認識する。そのうえで何か日本一があると、海外で「これが岡山大」と言いがやすい。何か日本一を岡山に作りたい。
24	文化ゾーンの再構築を	岡山市出身のグローバルな画家・国吉康雄を核として、後樂園・天神山周辺の文化ゾーンを再構築してはどうか。
25	瀬戸内海大文化圏の構築を	近県または近くの市と連携して瀬戸内海大文化圏を構築するのはどうか。その中で岡山市がどう存在感を示すかを考えてみる。瀬戸内海は日本で最初にできた国立公園であり、それを核とする日本一の大文化圏にしたい。
26	交通拠点として連携を	本学の准教授が両親を連れて、四国や蒜山方面に2泊3日の旅行をした。まさに岡山は交通の要衝だ。この地の利を生かし、拠点としての連携づくりが必要だ。岡山で学会を開催すると来やすいのか、参加者が多い。交通至便な点をぜひ活用してほしい。
27	観光の広域化を図り、アジアからの集客を	昨年ESDの開催で、多くの人に岡山に来ていただけた。コンベンションの誘致にさらに力を入れていただきたい。後樂園、岡山城と周辺の吉備津彦神社、吉備津神社、造山古墳、国分寺などを含めた観光の広域化を図り、アジアからの観光客を増やすことが必要だ。
28	歴史文化資産の統合的な管理と発信を	市内にある多くの優れた資産をすべて岡山市が統合して管理し、魅力を発信することで、魅力的なコンパクトシティとして、幅広い世代から支持されるまちになるはずだ。
29	SNSを活用し海外へ情報発信を	情報発信が不可欠。SNSを活用して、市長自身が直接海外に情報を発信してほしい。
30	観光こそ広域連携が必要	国は2020年までに海外からの観光客を2000万人にする方針だ。観光に関しては岡山市だけでは無理で、倉敷市や県内の観光地を共同で運営するように連携してほしい。広域連携が必要なのは、まさに観光だ。
31	外国人観光に対する意識改革を	B&B(ベッド&ブレイクファースト)の推進で、イギリスには安価な簡易宿泊所がたくさんある。岡山でもぜひこの施策を推進してもらいたい。コンベンションに関しては、岡山のホテルで英語が話せるスタッフが何人いるのか。韓国語や中国語はどうなのか。その点からも岡山の観光は遅れている。相当の意識改革が必要だ。
32	PRの強化と施策の順位付けを	岡山はPRが非常に下手だ。全国を回って目にするのは広島と香川ばかり。もう少しPRをしてほしい。総花的にいろいろするというよりも、一つ二つ絶対にこれだけはやり遂げるというものに絞る。順位をつけてやっていただきたい。
33	コンベンション等で交流人口の増加を	医療・教育・スポーツのコンベンションを一体的に管理し、地域との交流を図る。充実したコンベンションが複合的に実施できる仕掛けづくりが必要だ。後樂園などの歴史文化遺産を一つのストーリーとして海外に発信することも求められる。一度岡山を訪れた海外の人に情報を発信してもらうためにも、交流人口の増加は非常に重要だ。

No.	発言のポイント	要旨
34	生産性を高め、 就農者の育成を	岡山の野菜を求める消費者が多く、もっと出荷したいという生産者や業者の声がある。就農者の高齢化率が72%を超えている状況で、生産性を高めることはできないか。新規就農者を跡継ぎにできる方法、支援があればいい。
35	酒米の販路拡大 と支援を	生産者が米の価格を決められないことが一番の欠点だ。採算が取れないため、耕作放棄地が増加している。2018年から生産調整が廃止されると聞いている。県産米の販路拡大を目指し、うるち米から酒米への転換を図るとともに、そのための助成や指導を行政にお願いしたい。
36	雄町米のPRを	仕事の関係で雄町米に力を入れているが、不足している。酒米は価格が高く、会社の近くでも、獺祭という酒に使われる米が作られている。酒米がもてはやされている中で、雄町米は多くの酒米のもとになる。もっとPRしてもらいたい。
37	先進的な農業の 推進を	岡山県はやはり農業だ。人がやらないことを一生懸命研究すれば、すばらしい成果が出るはず。ゆっくりと先進的な取り組みをするのがいい。
38	農業人材の転 入・定着支援を	若手の農業リーダーの転入支援や、県内就農者の定着支援などが必要だ。マスカットなどのブランドフルーツの栽培技術を持つ生産者とのマッチング支援を行い、農地と技術の継承を図ることも必要だ。
39	地場産業の継承 と担い手育成の 支援を	地産地消の取り組みとして、岡山市内のホテルの料理に地場野菜を活用したり、野菜コーナーをつくるなどを進めていく。また、農・工・商の連携、他産業との連携をもっと進める必要がある。 地場産業というか地域伝統産業も衰退している。一つの文化として守るために、担い手やその育成に対して支援をすべきだ。
40	根強い農業づくり の推進を	現在の政権の中で「強い農業」という言葉があるが違和感がある。「根強い農業」が岡山市の農業であり、「根強い農業づくり」を岡山市の政策の中で展開していくべき。
41	岡山市産の食材 の全国展開を	農業都市岡山の発展を支えるには、地産地消と同時に岡山市産の食材を全国展開していくことが重要だ。その点で農業就労人口の高齢化と耕作放棄地の増加が懸念される。
42	観光の視点から 農業の活性化を	農業を活性化していくことが、観光資源としても活用し得る。そういう目線で農業を見ることも必要だ。
43	定年帰農者の受 皿づくりを	農業振興の対策では、若手の新規就農者の支援や呼び込みも重要だが、60歳の定年から10年、15年農業をしてはどうか。健康・医療・福祉と絡むことなので、定年後に帰農した人たちの受け皿づくりを拡大すべきだ。新規就農者の場合も、生産面だけでなく生活面も考えた上での支援が必要だ。
44	果物のブランド化 と地産地消の推 進を	ぶどうや梨などの果物の生産では後継者が育っている。商品価値のある果物のブランド化を図り、食べていける農業を目指してほしい。地産地消をさらに進めて、農業を支えることが必要だ。
45	さまざまな産業分 野でのサポート体 制づくりを	農業分野で岡山県がニューファーマー事業を、岡山市が就農サポート事業を行い、成果が出ている。農業に限らず、さまざまな産業で仕事のサポート体制をつくるのか、情報提供や生活基盤づくりでもサポートに取り組むことが重要だ。